



ともに未来へ  
笑顔あふれる  
わがまち府中



▲6月25日に行われた市民協働推進シンポジウムに多くの市民の皆さんが参加されました

平成26年第2回定例会

府中市市民協働都市宣言についてなど

8議案を審議

今定例会で市長から、「府中市市民協働都市宣言について」の議案が提出されました。この議案は、平成26年度を初年度とする第6次府中市総合計画に掲げる都市像「みんなど創る 笑顔あふれる 住みよいまち」の実現に向けて、市民と市が一体となって市民協働を推進していくため、市民協働都市を宣言するものです。

厚生委員会における審査の中で、「近年、少子高齢社会の進展や個人の価値観、ライフスタイルの変化に伴い、地域社会を取り巻く状況が変化し、これによって地域に生じる課題も複雑化、多様化してきている。地域課題の解決に向けては、複数の主体がそれぞれの特徴を生かして連携、協力をすることで、きめ細かなサービスが提供でき、ここから生まれる人と人とのつながりが、まちの地域力の向上にもつながることから、本市においてもこれまで以上に積極的に協働を推進していくため、本件を提案するものである」「宣言文については、25年5月に設置をした府中市市民協働推進協議会からの提言を最大限尊重して作成したものである」等の説明がありました。

質疑に対し、「宣言の文中において、市を構成する市民、自治会、町内会、NPO団体、

平成26年第2回市議会定例会は、5月30日から6月16日までの18日間の会期で開催されました。

市長提出議案は、「府中市市民協働都市宣言について」「府中市子ども医療費助成条例及び府中市ひとり親家庭等医療費助成条例の一部を改正する条例」など8件を審議した結果、可決6件、同意2件となりました。また、陳情1件が審議されました。

事業者、教育機関、市など全てを含め、『わたしたち』という形で表現をしている」「本市には自治会やコミュニティ協議会、NPO団体、あるいは社会貢献活動に取り組んでいる企業、また、大学を初めとする教育機関などの資産、財産が数多くあり、その貴重な力と一体となって課題解決に取り組んでいくことが求められている」「宣言の実施日等については、26年10月19日を予定している」等の説明がありました。

委員から、「今後、宣言しただけで終わらず継続して市民協働を進めていくことができるよう全庁的な取組を求め同議案に賛成する」等の意見があり、審査の結果、本案に



全議員が  
市制施行60周年記念ポロシャツを着用

今定例会では、高野議長、高野市長をはじめ市議会議員、市役所の幹部職員の全員が市制施行60周年シンボルマーク入りのポロシャツを着用し本会議に出席しました。

高野議長は「市制施行60周年をしっかりとアピールし、市民の皆様とともに記念すべき年を盛り上げていきたい」と話されました。

人事議案

定例会最終日の本会議に、市長から固定資産評価審査委員会委員の選任の同意を求める議案、人権擁護委員候補者の推薦の同意を求める議案が提出され、次の方々が同意されました。

■固定資産評価審査委員会委員  
小林 勤氏（62歳）  
人権擁護委員候補者  
齋藤 茂一氏（68歳）